

第62回試験研究成果発表会(花植木)発表概要

【動画配信期間】 令和7年3月31日(月)～令和8年1月5日(月)

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

花壇苗類の育苗時における暑熱対策技術

花植木研究室 中島 拓

施設花き栽培の暑熱対策として取り組みやすい技術の1つに遮光・遮熱資材の設置が挙げられます。従来の資材では、遮熱性を高めるには遮光率を高める必要がありましたが、近年は光を透過しつつ遮熱性の高い資材が多くメーカーから販売されています。そこで、それらの資材の特徴と、実際に展開した温室の環境と花き類の生育に及ぼす影響を紹介します。また、積極的に栽培環境を冷やす方法として、育苗中の夜間冷房の効果についても紹介します。



光の透過性が高い遮光・遮熱資材



夜間冷房によるパンジーの育苗
(左：冷房、右：無冷房)

発表2 成果発表

夏花壇におけるジニア優良品種の選定

花植木研究室 中島 拓

第69回全日本花卉品種審査会として開催された、初夏花壇の植栽に向くジニア優良品種の選定結果をお伝えします。入賞した3品種「ベリーズ ディープローズ」、「プロフュージョン レッドイエローバイカラー」、「TZ1068」は非常に気温が高かった令和5年度の5月～7月の露地栽培でも花が咲き続け、生育が非常に旺盛でした。これらの3品種の特徴をご紹介します。



審査会の様子



1等の「ベリーズ ディープローズ」

発表3 成果発表

トルコギキョウ斑点病の発生生態と防除のポイント

生産環境研究室 鐘ヶ江 良彦

トルコギキョウ産地では、トルコギキョウ斑点病の発生が問題になっています。トルコギキョウ斑点病は、圃場で急激に蔓延することがあり、防除が難しい病気です。そこで、本病の防除を的確に行うために試験を行ったところ、本病の発生しやすい条件と作型が明らかになりました。さらに、本病に対して効果的な薬剤も明らかになりましたので、併せて紹介します。



収穫期を迎えたトルコギキョウ



トルコギキョウ斑点病の病斑

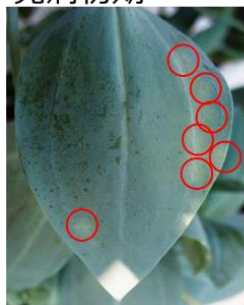
発表4 成果発表

トルコギキョウ斑点病菌の遺伝子診断技術

生物工学研究室 大川 美沙

トルコギキョウ斑点病は、すす状に胞子が密集した病斑を葉に形成し、商品価値を低下させる病害です。本病に特徴的なすす状病斑が形成されるまでの期間は2～4週間と長いため、本病を効率的に防除するには、すす状病斑形成前の感染初期の段階で防除を行うことが重要です。本病は、感染初期の症状として黄斑症状が形成されますが、本症状は生理障害と類似しているため目視による判別が困難です。そこで、感染初期の黄斑葉から斑点病を1日で診断できる遺伝子診断技術を開発したのでご紹介します。

発病初期



黄斑症状

発病後期

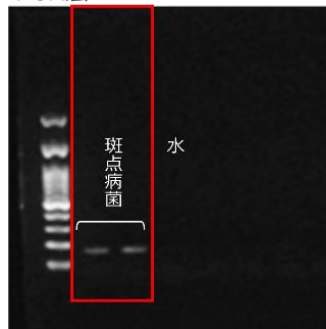


すす状病斑

2～4
週間

トルコギキョウ斑点病の病徴

PCR法



LAMP法



トルコギキョウ斑点病の遺伝子診断の結果
(左：PCR法、右：LAMP法)

発表5 成果発表

冬期出荷のスプレーストックにおける花芽分化を起点とする開花までの有効積算温度

野菜・花き研究室 古積 知之

スプレーストックの需要は年末と3月の彼岸に高まります。年末出荷の作型では、生育期にあたる夏から秋の高温が原因と考えられる花芽分化の遅れが、開花の遅れにつながり、年末に向けた出荷ができない場合があります。開花日を把握することは市場における有利販売に不可欠です。そこで、開花日を予測するための重要な指標となる、頂花蕾の花芽分化を起点とした開花までの有効積算温度を求めましたので紹介します。



花芽分化期を迎えたスプレーストック



頂花蕾の花芽分化（小花原基形成初期）

発表6 成果発表

年末出荷に向けたスプレーストックの開花調節

野菜・花き研究室 古積 知之

スプレーストックの需要は年末と3月の彼岸に高まります。年末出荷の作型では、生育期にあたる夏から秋の高温が原因と考えられる花芽分化の遅れが、開花の遅れにつながり、年末に向けた出荷ができない場合があります。そこで、高温条件下における花芽分化の遅れを回避する技術として植物成長調整剤の利用を紹介します。また、花芽分化後の開花促進には電照が有効です。切り花品質が低下しない光源について併せて紹介いたします。



高温条件下で植物成長調整剤により
花芽分化を誘導させて栽培した切り花
(品質の低下は見られない)



赤色 LED で栽培した切り花
(品質の低下は見られない)